

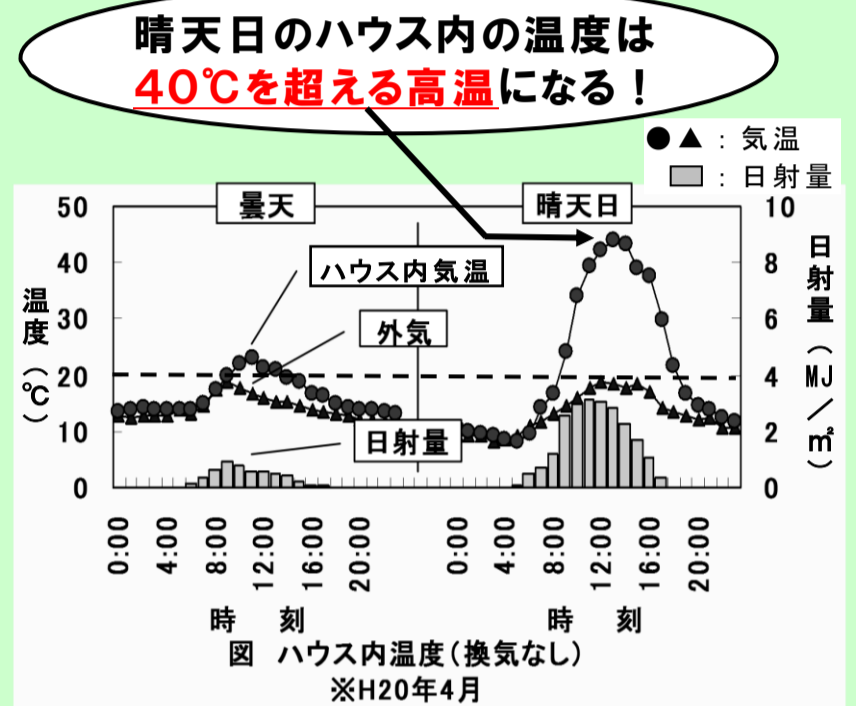
「あおば米」の品質向上のため、コシヒカリの田植えは5月15日を中心に！

- ・苗が軟弱徒長にならないよう、育苗ハウスの換気を徹底する。
- ・田植機は70株／坪にセットし、適正な水管理で初期分けつの発生を促す。
- ・基肥は品種や土壌条件に合わせて適正量を施用し、適正生育へ誘導する。
- ・除草剤は使用前に必ずラベルを確認し、除草効果を高めるため遅れずに散布する。

1 硬化期の育苗管理

～換気を徹底して、健苗づくりに努める～

- 日中のハウス内の温度は20～25℃を目安に管理する。
(特に、晴天日は早朝から換気する)
- かん水は朝1回を原則とし、床土の乾きに応じてかん水する。(かん水過多は根張りが悪くなりやすいので注意する)
- 田植え7～10日前からは、10℃以下の低温にならない限り、昼夜ともハウスを開けて苗を外気に慣らす。
- 強風の時はハウスの風下側を開けるなど、苗に直接風が当たらないよう注意する。



2 本田準備と病害虫防除

～田植えは代かきから5日以内に行う～

- 整地の良否は稲の生育や雑草の発生に大きく影響するため、耕起や代かきは丁寧に行い、田面の均平に努める。
- 代かきは田植え予定日の3～5日前に実施する。また、代かきは少なめの水で行い、稲わらなどの埋没に努めるとともに、濁り水は排水路へ流さないように注意する。

<育苗施薬> ～除草剤を間違えて育苗箱に散布しないよう注意しましょう～

対象品種	主な対象病害虫	薬剤名	散布量	散布時期
全品種	いもち病、紋枯病、 イネミスゾウムシ、 イネドロオウムシ、 フタオビコヤガ、 ニカメイチュウ、 ツマグロヨコバイなど	ルーチンブライト 箱粒剤	50g/箱 (1kgで 育苗箱20枚分)	は種時(覆土前) ～ 移植当日

☆播種前に散布機の日盛を調整し、適量が散布されているか確認する。

☆育苗終了後の育苗ハウスで野菜を作付けする場合、薬剤散布は育苗ハウスの外に搬出してから行う。
(播種時や育苗ハウス内で散布した場合、その後ハウス内で栽培した野菜に農薬残留する恐れがあります。)

3 斑点米カメムシ対策(第2回)

～斑点米カメムシが好む雑草を春から減らす～

- 斑点米カメムシ類は、主にイネ科雑草に生息することから、バスタ液剤やザクサ液剤などの除草剤を使用する場合、**田植え前までに散布**する。
※周辺の農用地や作物に飛散しないよう、散布方向・範囲に注意し、風のないときに散布する。
- 除草剤散布をしない場合は、幼虫の餌となるイネ科雑草が穂をつけないよう、こまめに草刈りを行う。

4 田植えと水管理

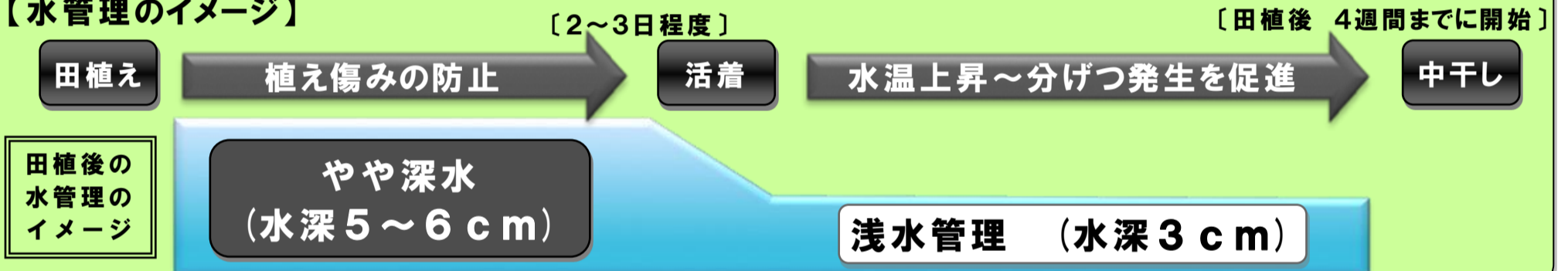
～適正な「植付け」「施肥量」「水管理」で初期分けつを確保～

- 栽植密度は70株／坪にセットし、植付本数は3～4本／株、植付深さは3cm**に調整する。
- 基肥は、品種や土壌条件などに応じた施肥基準量を遵守**するとともに、田植時の施肥量確認は必ず行う。なお、昨年「てんたかく」が倒伏したほ場は、必ず減肥する。
- 活着までは**5～6cm程度のやや深水**にして植え傷みを防ぎ、田水温を確保する。
活着後は**3cm程度の浅水**にして、早朝に入水し、日中は止め水にして田水温を高める。

表 「てんたかく81」の施肥設計例(基肥一発体系)

	肥料名	成分 N-P-K	土壌区分ごとの施肥設計例 (kg/10a)				
			砂壤土	壤土	埴壤土	赤土	黒ボク
昨年(令和2年)から	LPs早生専用特号	24-7-18	37～42	32～37	30～35	32～37	37～42
↑ 令和元年まで	LPs早生専用	22-12-14	40～45	35～40	33～38	35～40	40～45

【水管理のイメージ】

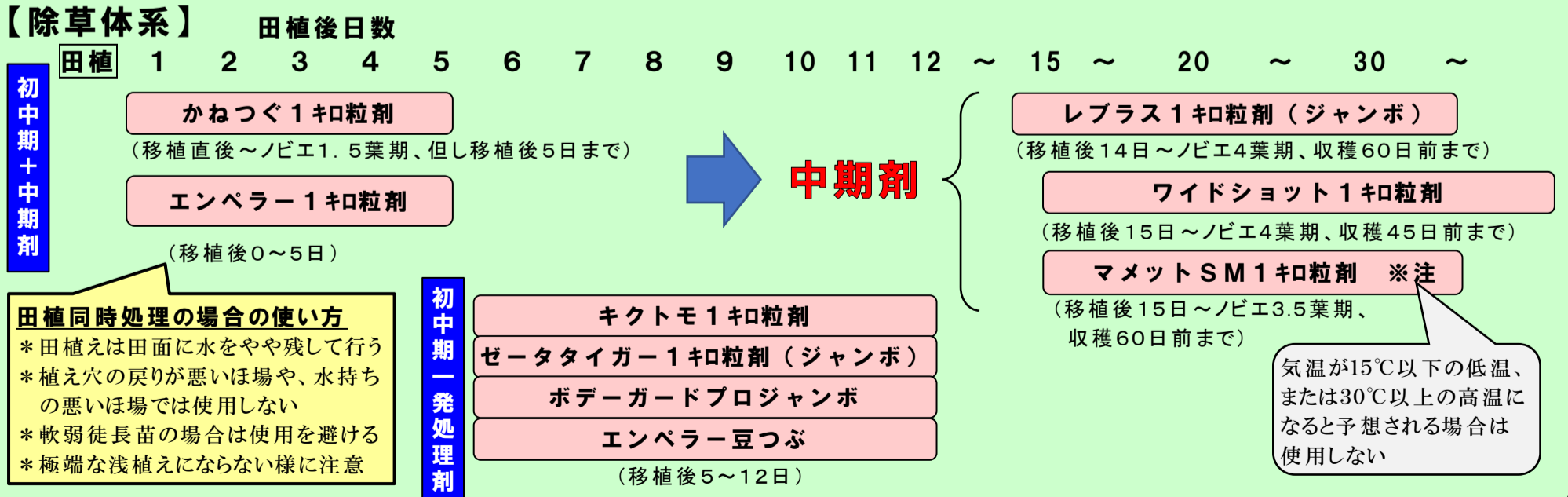


5 除草剤散布

～使用基準を遵守し、ムラなく均一に適期散布する～

- 除草剤の散布前に、畦畔や排水口からの漏水の有無を確認するとともに、漏水箇所を手直しする。
- 河川への農薬成分の流出を防ぐため、**散布後7日間は「止水管理」にして落水しない**。
- 散布後5日間は**湛水状態**を保つ。
- 雑草が多いほ場は、「体系処理」で除草効果をさらに高めましょう。

【除草体系】



田植同時処理の場合の使い方

- * 田植えは田面に水をやや残して行う
- * 植え穴の戻りが悪いほ場や、水持ちの悪いほ場では使用しない
- * 軟弱徒長苗の場合は使用を避ける
- * 極端な浅植えにならない様に注意

育苗や本田作業後は、忘れずに生産履歴簿へ作業内容を記入しましょう